

## I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2020年度大学評価結果総評】(参考)

現代福祉学部の教育理念「ウェルビーイング (Well-being) のもと、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3つの領域を柱とした教育カリキュラムが生まれ、その改善に向けた検証と努力がなされていることは評価できる。グローバル化に対応した、新カリキュラムにおける教育内容・教育方法・学習効果の改革を着実にかつ計画的に進めていることは高く評価できる。今後は、新カリキュラムの教育効果の測定および評価方法への開発に向けた取り組みが求められる。学生の受け入れは、学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させるために、2019年度から始めた「まちづくりチャレンジ特別入試(自己推薦)」など学生の受け入れに積極的な姿勢は評価される。また、新型コロナウイルス感染症の防止のために、学習支援システムやオンライン授業の実施にあたっているが、学生に不利益にならないように教育や学生支援を行うことが、今後の大きな課題となろう。なお、学内外への貴学部の特徴等のPRという点もあるので、評価対象となった基準の「長所・特色」、「問題点」については、今後は可能な限り記入いただくことが望まれる。全体として学部の専門性に即した教育努力がなされており、今後も継続されることを期待したい。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

評価をいただいた点について今後も継続的に取り組み、学部が有する専門性と独自性を再度確認した上で、学部内だけでなく対外的にも積極的に発信していく。さらに、感染症の蔓延による社会情勢と価値基準の変容に対応できるスペシャリストの育成に向けて、新しい国家資格への対応、語学や実習教育の充実など、更なる努力を重ねていきたい。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

現代福祉学部は新カリキュラムを2021年度入学生から適用することとなっている。これは言語コミュニケーション科目については、中国語・日本手話に加えてフランス語とドイツ語が追加された。これらは学生モニタリングの反映であり、日本手話は福祉業務との関連から、ドイツ語は臨床心理文献の学習のためという要望によるもので、学部の特性とともに第二外国語に対する学生の意欲に応じたものであり、学生もバランスよく学習する成果が現れていることがインタビューにより確認できた。また、国家資格である社会福祉士の制度改革に伴う対応、今日的な社会課題に対応するコミュニティマネジメント分野等の科目改編を進めるなどの点では、社会の要請に応える姿勢が評価できる。今後は新カリキュラムの円滑な実施と定着、検証を期待したい。

前年度の自己点検・評価シートに記載がなかった「長所・特色」「問題点・課題」について、記入が行われたことを評価したい。問題点・課題の解消を図りつつ、少数教育やアクティブラーニング、フィールドワーク科目の充実で代表される現代福祉学部の特色を広く社会に伝える努力を継続されることを期待する。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2021年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。コミュニティをベースとしつつ、社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系的に鑑み、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成がなされている。これらの知識・技能を基盤として実習やインターンシップによる現場教育を充実させ、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。

実習・インターンシップ科目としては、福祉コミュニティ学科のコミュニティ系実習科目として「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」を2年次から選択できるように配置し、3～4年次においては社会福祉系実習科目である「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」と臨床心理系実習である「臨床心理実習」を配置し、学生の学びの多様性の保障に努めている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

現代福祉学部が掲げる専門性の高い職業人を育成し続けるため、言語コミュニケーション科目の更なる充実のため新たにフランス語とドイツ語を追加したほか、国家資格である社会福祉士の制度改革に伴う対応、今日的な社会課題に対応するコミュニティマネジメント分野等の科目改編を進めることとし、「カリキュラム検討委員会」において議論内容を再度確認整理し、新カリキュラムを2021年度入学生から適用することとなった。

**【根拠資料】** ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ.各学年での履修）
- ・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum.pdf>
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18kaikou.pdf>
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum\\_tree.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum_tree.pdf)
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum\\_map.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum_map.pdf)
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum.pdf>
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8kaikou.pdf>
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum\\_tree.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum_tree.pdf)
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum\\_map.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum_map.pdf)

**②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。**

S A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

カリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成の観点から学部の教育理念に基づいてカリキュラムの改編を進めてきた。

『履修の手引き』と学部ホームページにおいて各学年での標準的な履修方法を学生に提示し、年度初めには在学生によるラーニングサポーターと教務委員による履修相談会を実施することで、学生の志向性に合わせたカリキュラム体系を説明する機会を設けている。

カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーにおいては、ディプロマ・ポリシーごとの科目を各学年に列挙し、4年間を通して体系的に学べるよう配慮している。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

上述したが、言語コミュニケーション科目におけるフランス語とドイツ語の追加のほか、国家資格である社会福祉士の制度改革に伴う対応、今日的な社会課題に対応するコミュニティマネジメント分野等の科目改編を行った。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ.各学年での履修）
- ・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum.pdf>
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18kaikou.pdf>
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum\\_tree.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum_tree.pdf)
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum\\_map.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/fuku18curriculum_map.pdf)
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum.pdf>
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8kaikou.pdf>
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum\\_tree.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum_tree.pdf)
- ・[http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum\\_map.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendai Fukushi/gakka/shinril8curriculum_map.pdf)

**③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。**

S A B

※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

専門領域を越えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化されている。

1年次からの専門教育偏重を避けるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は、2年次からの配当としている。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・福祉コミュニティ学科では、カリキュラムの改編に併せて、専門基礎科目と専門基幹科目の構成も見直した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2021年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ、カリキュラム）</p>	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>1年生を対象として少人数の演習形式で行う「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を開設し、大学における学習の視座、方法や技術に関する初年次教育を実施している。</p> <p>「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の内容および指導方法や進め方の向上を目的に、春学期と秋学期に基礎演習担当者懇談会を実施したほか、毎回の授業内容を全担当教員でメール共有することで、クラスにより授業の進め方に大きな差が生じないように心がけている。</p> <p>また、「基礎演習Ⅱ」（秋学期）において、学生のモチベーション及びリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目的としてグループワークを行い、成果発表の場として「基礎ゼミコンペ」を行っている。2018年度からは全クラスが参加する仕組みを整え、1年生全員参加のもと、特徴ある調査結果と改善政策提言の報告およびレベルの高いプレゼンテーションが行われた。</p> <p>さらに担当教員に教育開発支援機構 FD 推進センターが作成した「学習ハンドブック」を配布し、基礎演習での指導に活用した。</p> <p>付属高校生に向けては、本学の教育理念や内容を伝える方法を改善し、それに共感する高校生が入学できる入試制度を整えている。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>感染症蔓延によりオンライン授業に転換したため、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」のプログラムを全面的に見直した上で、クラスによる差異が生じないように、授業実施内容と学生の様子を全担当教員が毎回授業終了後にメールで情報共有した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」における春学期（前期）共通プログラムメモ</p> <p>・教育開発支援機構 FD 推進センターが作成した「学習ハンドブック」</p>	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「Intensive English」を開講している。</p> <p>また2つの学科にまたがって、英語を教授言語としている「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」を開講し多くの学生が受講している。</p> <p>学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な社会福祉・コミュニティマネジメント・臨床心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2年生30名）も設けているが、2020年度は渡航できなかった。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>本学部佐野ゼミが、ベトナムとの交流や技術開発を提案したプランが「関西大学×法政大学 SDGs アクションプランコンテスト」の最優秀賞と優秀賞を受賞した。さらに、集中講義を受けた学部生3人によるパキスタンの聴覚障害者に向けたアップサイクルプランが「2020 HOSEI SDGs WEEKs のフォローアップ活動」として表彰された。このように、オンライン授業が中心となった年度でも国際的な教育活動を推進することができた。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・関西大学×法政大学 SDGs アクションプランコンテスト開催報告  <a href="https://www.hosei.ac.jp/info/article-20201109142956/">https://www.hosei.ac.jp/info/article-20201109142956/</a></p> <p>・2020 HOSEI SDGs WEEKs のフォローアップ活動  <a href="https://www.hosei.ac.jp/sdgs/info/article20210305091827/?auth=9abb458a78210eb174f4bdd385bcf54">https://www.hosei.ac.jp/sdgs/info/article20210305091827/?auth=9abb458a78210eb174f4bdd385bcf54</a></p>	
⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。</p> <p>さらに、キャリア教育の一環として、大学における学びと職業選択の連関性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設し、より実践的な教育を行っている。1年生向けの「基礎演習Ⅰ」においてもキャリアセンター</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

から講師を招き、担当教員とともに将来の職業に向けての学びについての講義を提供することで、学生が自ら考えるきっかけづくりを行なっている。

また、学部同窓会との共催で「学部同窓生とのオンライン交流会」を開催し、卒業後の進路のイメージ形成を促した。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

上述の「学部同窓生とのオンライン交流会」を新たに開催（10月）し、同窓会と連携した新たなキャリア教育に着手した。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「フィールドスタディ入門」開講スケジュール
- ・「キャリアデザイン論」開講スケジュール
- ・学部同窓生とのオンライン交流会開催案内

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A  B

**【履修指導の体制及び方法】** ※箇条書きで記入。

感染症蔓延のため、年度当初の学年ごとの履修ガイダンスならびに履修相談会を実施できなかった。2019年度より実施しているラーニングサポーターによるオンライン履修相談（先輩学生による留学生や新入生、後輩学生へのアドバイス）は行ったが、通常よりも相談件数は多くはなかった。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

ラーニングサポーターによる履修相談は急遽オンラインに切り替えて行ったが、履修登録時期にうまくタイミングが合わなかった。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ガイダンス資料（ガイダンス日程・各学年のガイダンス配布資料）
- ・ラーニングサポーターに関する案内メール配信

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S  A B

※取り組みの概要を記入。

学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。

個々の教員はオフィスアワーを設定し個別指導を行っている。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・現代福祉学部履修の手引き（各学科 IIカリキュラム 2. 演習・実習科目）
- ・現代福祉学部履修の手引き（専任教員紹介におけるオフィスアワー）

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S  A B

※取り組みの概要を記入。

シラバスにおいて各回の授業内容を明示するとともに、【授業時間外の学習】の項目において、学生が行うべき学習内容を示し、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・シラバス

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S A B

**【具体的な科目名及び授業形態・内容等】** ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

感染症蔓延により、全学的にオンライン授業中心に切り替えた結果、教材配信型のオンデマンド授業やリアルタイムオンライン授業が数多くの科目で取り組まれた。

3領域における実習・インターンシップ科目は、座学で得た知識・技術・価値を実際の現場との連携によって実践的に修得し、問題解決能力や実践力を身につけることができる授業形態としている。それらの学びは、年度末に実習報告書としてまとめている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」において、学生による実習報告会を開催した。また、実習施設の実習指導者等を招いて実習実施体制等の振り返りを行うとともに新カリキュラムにおける社会福祉士養成教育の在り方についてオンラインにて懇談会を実施している。</p> <p>より良い授業を目指して、授業相互参観（春学期と秋学期に実施し、授業形式に関する情報交換）を実施し、教授会においてその内容を確認している。</p> <p>講義科目でグループワーク等のアクティブラーニングを導入する授業を把握し、あらかじめ座席をグループワークに適した形にした教室を優先的に使ってもらえるようにしている。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>本学の「課題解決型フィールドワーク for SDGs」に水野雅男氏が今年度2度目の採択を受け、大学キャンパスでの避難生活のデザインを目的に、5学部10名の学生が参加した。教室での座学のみならず、屋外空間も用いたアクティブラーニングを取り入れ、授業の新しい形を試行することができた。この取り組みは本学の2019年度「自由を生き抜く実践知大賞」にもノミネートされ、「人々への共感賞」を受賞した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度各領域実習報告書</li> <li>・2020年度実習報告会資料</li> <li>・2020年度授業相互参観報告書</li> </ul>	
<p>⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>「基礎演習」「専門演習」や「言語コミュニケーション科目」については、少人数教育を行うために1授業あたりの学生数を制限し、クラス編成を行っている。</p> <p>同様に、実習教育においても、少人数での演習指導が行えるようにクラス編成を行っている。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代福祉学部履修の手引き</li> </ul>	
<p>⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>2020年度は、急遽全学的にオンライン授業への対応が図られることになり、4月に学生へのオンライン授業受講環境の実態調査と教員に対する授業実施形態の意向調査を行った上で授業を開始した。さらに、6月に学生へのオンライン授業に関する満足度調査を実施し、その結果を後述するウェルビーイング研究会において専任教員と兼任教員で共有し、オンライン授業の成果と今後の課題について意見交換を行い、秋学期の授業に反映することができた。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェルビーイング研究会開催案内メール</li> </ul>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制及び方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一を図っている。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（現代福祉学部）成績評価割合のガイドラインについて</li> </ul>	
<p>②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>成績評価については、特に複数クラスを設定している基礎演習において、クラスごとの偏りがないように、春学期と秋学期に基礎演習担当教員懇談会において打ち合わせを実施し、申し合わせ事項を作成した。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて</p> <p>・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」出欠と成績評価に関する申し合わせ事項</p>	
③学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>専門ゼミを通して就職・進学の実態把握を行い、教授会で報告している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2020年度卒業生の就職・進学状況一覧</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。</p> <p>また、GPAが0.5以下の学生については、執行部・教務委員による個別面談等により原因の把握や改善策の検討を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・現代福祉学部 進級・卒業審査資料</p> <p>・成績不振学生対応基準</p>	
②「学修成果の把握に関する方針(アセスメント・ポリシー)」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>福祉コミュニティ学科は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験対策講座を実施している。また、両国家資格合格者人数の把握によって学習成果を測定している。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・試験対策講座の資料</p> <p>・社会福祉士・精神保健福祉士合格者データ</p>	
③「学修成果の把握に関する方針(アセスメント・ポリシー)」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>英語に関して、入学時と1年終了時にTOEICテストを実施することにより、個々人の能力の同定に寄与するとともに、担当教員の効果的な授業運営に活かし、また1年次および次年度の習熟度別科目のクラス編成にも役立てている。2018年度入学生からの「インテンシブ・イングリッシュ」については、春と秋に受験するTOEFLのスコアを比較し、その学習効果を科目担当者と語学教育運営委員会とで検証を行い、より適切な授業運用や指導を行うよう努めている。</p> <p>「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」において実習報告会を実施するとともに実習報告書を作成している。「臨床心理実習」においても実習報告書を作成している。</p> <p>「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」は、年度末に調査・実習報告書を取りまとめ、その指導を通じて習熟度を把握している。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2020年度入学生以降の春(4月)および年度末(1月)のTOEICテスト結果</p> <p>・2020年度各領域実習報告書</p>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。</p> <p><b>【2020年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・2020年度現代福祉学部卒業生 卒業論文テーマ一覧	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 例年は「授業改善アンケート」や学部が独自に実施している「カリキュラム改善アンケート」の結果に基づき、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会等において改善点の検討を行ない、カリキュラム編成に反映させているが、今年度は学部独自のアンケート調査は実施できなかった。 学生への「モニタリング調査」を毎年実施（今年度はオンラインで実施）し、教育成果を教務委員会と教授会において検証している。	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
・特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・2020年度学生へのモニタリング調査結果	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
※利用方法を記入。 教授会において「授業改善アンケート」結果の情報について共有化を図っている。これまでのアンケート結果や学生へのモニタリング結果を受けて、2018年度入学生から、より実践的な英語の能力を測定するためTOEICテストを導入、2021年度入学生から諸語（フランス語、ドイツ語）を開講することとした。	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
・学生への意向調査結果を反映して2021年度入学生から諸語（フランス語、ドイツ語）を追加した。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・2019年度および2020年度授業改善アンケート結果	

## (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
学部の規模が大きくないので、少人数教育やアクティブラーニングが多いこと、学部の専門性の観点から各実習を中心にフィールドワーク科目も充実していること、さらには海外への協力支援などにも取り組んでいること、同窓会との連携でキャリア教育も進展しつつあることなどが本学部の教育の特色として挙げられる。	

## (3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
各教員の持ち味を活かした多様なゼミ活動が行われているが、相互にそれを確認する機会が持たれてこなかった。学生の学習成果を発表することは、教員のFDを推進する上でも重要であり、今後の重点課題と位置づけられる。	

**【この基準の大学評価】**

現代福祉学部は「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」などの領域で働く専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしており、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成や、実習・インターンシップ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

による現場教育の充実によってその目標の実現を図っている。なお、2021年度入学生からはかねてより検討されてきた新カリキュラムが適用されている。

カリキュラムの順次性・体系的性を学生の能力育成に生かす観点から、標準的な履修方法の提示や、ラーニングサポーターと教務委員による履修相談会の実施などの取り組みを継続しており、評価できる。また、1年生を対象とした少人数演習形式の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」において、基礎演習担当者懇談会を春学期・秋学期に実施し、「基礎演習Ⅱ」において「基礎ゼミコンペ」を1年生全員参加のもとに実施するなど、初年次教育の質保証に向けた取り組みが行われていることも重要な点である。「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」においても学生による実習報告会の実施と実習報告書の作成が行われ、実習施設の実習指導者を招いたオンライン懇談会を実施するなど、実習科目の質保証に努めていることも評価できる。

2020年度より新たに開催された「学部同窓生とのオンライン交流会」も、在学生在がみずからのキャリアを展望する意味で有意義なものとなるのが期待できる。また卒業生との交流としては、カリキュラムのなかでも、「フィールドスタディ入門」があり、卒業後の多様な進路・仕事の内容について直接に実地の経験談を知る機会が設けられていることがインタビューにより確認できた。

成績不振者への対応については、執行部と教務委員（全8名）で面談を実施しており、担当者自身が対象学生に電話・メールで連絡をしている。実際に面談が実現したのは5名（4割ほど）とのことだが、これまでの経験を踏まえ、今年度よりGPAの基準を上げて対象学生の範囲を広げるとともに、春・秋と二回実施するように変更がなされた。こうした取り組みを含め、学生とのつながり・支援を充実させようとする方針は重要であり、評価できる。

## 2 教員・教員組織

### 【2021年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

#### 【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催のウェルビーイング研究会を毎年3回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションしFD活動を推進している。

#### 【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

ウェルビーイング研究会

##### ■第1回

日時 2020年6月27日（土）15:00～17:30

会場 オンライン

テーマ 新任教員の研究報告

とオンライン授業満足度調査結果に関する意見交換

講師 高良麻子教授「ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションに関する研究」

根岸弓助教「児童虐待対応制度の評価および制度構想に対する理論的・経験的検討」

参加人数 20名

##### ■第2回

日時 2020年11月25日（水）15:30～17:00

場所 法政大学多摩キャンパス 現代福祉学部心理実験室＋オンライン

テーマ オンライン授業に関する情報交換

参加人数 23名

##### ■第3回

日時 2021年3月12日（水）11:10～12:50

会場 法政大学多摩キャンパス 現代福祉学部301教室＋オンライン

テーマ 2019年度国内研究員としての活動・成果報告（服部 環教授・岡司直也教授から）

参加人数 25名

#### 【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入

オンライン授業に関する情報交換を重点的に行った。

#### 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・2020年度ウェルビーイング研究会開催の案内	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>ウェルビーイング研究会において、学部内の教員の研究成果や社会活動について発表し、資質向上を図っている。年に一度、本学部で発行している『現代福祉研究』において、教員業績の発表を義務付けることにより、研究業績の向上を教員間で共有している。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入</p> <p>本学全体の取り組み（「課題解決型フィールドワーク for SDGs」「SDGsアクションプランコンテスト」）の応募を教授会等で促した結果、2020年度は、先述した学部横断の集中講義がスプリングセッションに開催され、5学部10名の学生が参加した。また、SDGsに関する国際的なプロジェクトが複数表彰されるなど、社会貢献の活動が活発化した。</p> <p>本学の懸賞論文への呼び掛けを強化した結果、応募件数と入賞件数がともに増加し、優秀賞1件、入選1件、佳作3件が表彰された。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第43回法政大学懸賞論文入賞一覧 <a href="https://www.hosei.ac.jp/application/files/9416/1172/7596/432020_.pdf">https://www.hosei.ac.jp/application/files/9416/1172/7596/432020_.pdf</a></li> <li>・2020年度ウェルビーイング研究会開催案内</li> <li>・『現代福祉研究』</li> </ul>	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>先述したが、オンライン授業に転換したことに対して、学生へのオンライン授業に関する満足度調査を実施し、その結果をウェルビーイング研究会において専任教員と兼任教員で共有し、オンライン授業の成果と今後の課題について意見交換を行い、秋学期の授業に反映することができた。さらに、秋学期の同研究会においてもオンライン授業方法に関する情報交換を行っている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度ウェルビーイング研究会開催案内</li> <li>・オンライン授業満足度調査結果</li> </ul>	

## (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
ウェルビーイング研究会において、専任教員と兼任教員とがともに教育研究活動に関する情報交換を活発に行っており、そのコミュニケーションの密度が高いことが本学部の特色と言える。	

## (3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
ウェルビーイング研究会の成果をすべての兼任教員に周知できていないことが課題と考えられ、その伝達方法について検討を要する。	

## 【この基準の大学評価】

現代福祉学部は兼任教員も招いて大学院教授会と合同で年に3回実施しているウェルビーイング研究会が、研究交流の場であると共にFD活動の場としても機能していることがうかがわれ、評価できる。

SDGsに関する学内外のプロジェクトへの積極的な参加も、研究活動を通じた社会貢献として評価できる。専任教員と兼任教員がともに教育研究活動に関する情報交換を活発に行う場であるウェルビーイング研究会に、より多くの兼任教員が参加し、不参加の兼任教員にもその場における話題と成果が共有されるよう、その方策が工夫されることを

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

期待したい。

## 3 その他の基準の COVID-19 への対応

## 【2021 年 5 月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。

①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

## ※取り組みの概要を記入

入国が制限されている留学生や本人あるいは  
 家族が基礎疾患などでキャンパス登校が叶わない学生に対して、ハイフレックス型授業環境を整えて実施している。

## 【根拠資料】

・特になし

## 【この基準の大学評価】

現代福祉学部では6月の段階で学生へのオンライン授業に関する満足度調査を実施し、その結果をウェルビーイング研究会において専任教員と兼任教員で共有し、秋学期の授業に反映させたことは迅速な対応であり、評価できる。

入国が制限されている留学生などにはハイフレックス型の授業環境が整えられているとのことだが、COVID-19 の影響が長期化している中で、従来の対応で十分であるか、当該学生のニーズの継続的な把握も必要であろう。

## III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的
	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。
	年度目標	①現代福祉学部の目的や教育理念についての発信を強化し、広報戦略の見直しを行う。 ②学部の理念や目的に即したカリキュラム 改正を実現し、周知方策を検討する。 ③教職員や学生の取り組みやメッセージをオンラインメディアで頻度よく発信できるようにする。
	達成指標	①学部の広報委員会の人数を増やし、その所掌範囲の見直しを行う。 ②2021 年度のカリキュラム改正を反映した効果的な広報媒体を検討し、作成する。 ③学部のオンラインメディア (HP, SNS 等) を活用し、HP 等の月間閲覧者数のカウントを検証する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等における、学部パンフレットとリーフレットの配布と広報活動を行う。
1	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
年度末報告	理由	広報委員を4名から7名に増やし、広報媒体や推進体制の見直しを行う予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により、広報委員会の活動が制限されてしまった。パンフレットの改訂作業も、授業や活動の様子、教員の顔写真も撮影できないまま、部分修正に留まった。しかし、学生の活動等の学部のニュースを学部HPで配信する頻度はかなり高まった。オープンキャンパスもオンライン実施となり、学部単体の広報が実現しなかった。 新入生を中心とした学生向けに「ウェルビーイングへの架け橋」として、教員のメッセージを約2ヶ月毎日配信し続けた。
	改善策	新型コロナウイルス感染が収束することを見据え、オンラインメディアと紙媒体を併用する形で広報戦略を練り直す必要がある。 教員のメッセージを配信すること、教職員や学生の活動をきめ細やかに広報する機運が高まってきており、この動きを継続していく。
	質保証委員会による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		所見	ほぼ達成し、質の向上が見られる。新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり、予定を変更せざるを得なかった点もあったが、新たな活動が試みられたことなどが評価される。	
		改善のための提言	新型コロナウイルス感染の状況等を見ながら、さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。	
No	評価基準	内部質保証		
2	中期目標	継続的な内部質保証を実現するための PDCA サイクルを充実させる。		
	年度目標	①質保証委員会と学部執行部による PDCA サイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD 改善に向けた研究会の内容について検討する。 ③上記について新型コロナ感染拡大に対応した方法を検討する。		
	達成指標	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を定期的に行う。 ②ウェルビーイング研究会を年 3 回開催し、そのうち 1 回は FD 改善のための意見交換を行う。 ③ウェルビーイング研究会のオンライン開催を検討する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初と年度末に行った。ウェルビーイング研究会は、オンライン併用型で 3 回（6 月、11 月、3 月）実施した。オンライン授業の評価について 6 月に学生ヘアンケート調査を実施し、同授業の効果と課題について教員ヘアンケート調査を実施し、その結果に基づき、非常勤講師も交えて意見交換を行った。	
		改善策	質保証委員会と執行部で、年度中期に達成状況の確認と残された課題を確認することが望ましい。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。	
		改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】		
3	中期目標	2018 年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。		
	年度目標	2018 年度カリキュラムについて、学生の評価結果を調査し改善策を協議するとともに、2021 年度の新カリキュラムに活かす。特に、2020 年度の新型コロナ感染拡大に対応したオンライン授業の内容検証に重点を置く。		
	達成指標	①学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。 ②モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。 ③カリキュラム・マップやツリーを適切に改正する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	秋学期に学生 4 名へのモニタリング調査を行った。その結果、カリキュラムポリシーやディプロマポリシーがほとんど認知されていないことや海外研修の選考方法の課題を把握し、教授会で報告を行った。 カリキュラム・マップやツリーは、2021 年度のカリキュラム改編に向けて改正した。	
		改善策	カリキュラムポリシーやカリキュラムマップ、ツリーについても、年度当初のガイダンスで周知することが求められる。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	ほぼ達成し、質の向上が見られる。今年度予定されていた活動は実行されたが、学生へのモニタリング調査から今後の課題が明らかになった。	
		改善のための提言	明らかになった課題に取り組んでいただきたい。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
4	中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。	
	年度目標	①オンラインによる講義形態について指針を示すとともに、その検証を行う。 ②新型コロナウイルス感染拡大に対応したゼミでの活動、実習、インターンシップの展開について指針を示すとともに、その検証を行う。	
	達成指標	①オンラインによる授業形態について執行部を中心に検討し、専任非常勤教員に向けて指針を出す。 ②実習、インターンシップの扱いについて担当教員と執行部が中心になって検討し、指針を出す。 ③上記の①、②の成果について教務委員会ならびに実習調整委員会において協議し、検証を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	春学期の冒頭に学生の受講環境を調査し、オンラインによる授業形態の方針を定め、専任教員・非常勤講師に向けて周知した。秋学期も同様に指針を配信しそれを徹底した。実習、インターンシップについては、実習委員長と実習担当教員が派遣先と連絡を密に取りながら、すべてのプログラムを実施した。
		改善策	オンライン授業と対面授業それぞれの効用と課題を把握することができたので、それぞれの特性を活かしていき、時間割等の一部見直しにも着手することが望まれる。
質保証委員会による点検・評価			
所見		目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。	
改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
5	中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。	
	年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③研究活動の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。	
	達成指標	①実習の報告書と報告会について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に学部内で5本投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。 ⑤優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを学部内で表彰する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	SW実習、コミュニティマネジメントリサーチ・インターンシップ、心理実習の各報告書を印刷し、SW実習では報告会も実施した。 懸賞論文に9編投稿し、優秀賞1編を含む5編が入賞した。 優秀な成績を収めた論文等は3月下旬に表彰式を行い、学部HPで広報を行った。
		改善策	卒業論文も含め、優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを発表する機会を持つことが次のステップとして必要である。
質保証委員会による点検・評価			
所見		目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。	
改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。		
No	評価基準	学生の受け入れ	
6	中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度目標	留学生受け入れの動向や指定校入試、グローバル体験入試などの特別入試について、学部の教育理念に照らして検討する。特に 2019 年度から始まった「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」について検討する。
	達成指標	①教務委員会において、各入試の動向について検討協議し、教授会にて決定する。 ②「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」を設置し、入学者の状況把握や入試広報についての検討を進める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	教務委員会で、入試経路別の入学者数の推移を確認し、次年度の募集枠の見直しを行った。ここ 2 年間ゼロだった編入生を 2 名確保できたことは大きな収穫であった。 まちづくりチャレンジ入試運営委員会を設立し、同入学生と 2 回懇談会を設けて、同入試のオンライン相談会を学生と教員の協働で開催し、今後の広報体制についても検討した。 指定校推薦入試入学予定者に対して、参考図書の紹介とレポート提出を新に課して、本学部での学習の意欲付けを行った。
	改善策	今後も多様な入試経路を確保しつつ、学部の教育理念「ウェルビーイング」を意識して志願する学生（編入生を含む）を確保するための戦略を検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	目標をほぼ達成し、質の向上が顕著である。編入生の確保など、具体的な成果が得られている点が評価される。
	改善のための提言	多様な入試経路の確保に向けて、引き続き取り組んでいただきたい。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
	年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
	達成指標	①情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	若手教員の採用ならびに専門性と学際性を活かすための教員組織のあり方について教授会懇談会で議論に着手した。
	改善策	今後も学部の将来的な展望を見据えた教員組織のあり方について継続協議していくことが必要である。
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教員組織のあり方について教授会懇談会で議論に着手した点が評価される。
	改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。
	年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低 GPA 学生に対する支援の仕組みを整える。 ②オンライン授業化に対応した履修相談の仕組みを整える。 ③先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年間を通して身近な相談の機会を充実させる。
	達成指標	①学部基準による低 GPA（0.5 以下）の学生について、春学期には当該学生が所属する専門ゼミの教員に対して情報を提供し、秋学期には専門ゼミの教員や執行部による面談を試みる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		②履修相談とラーニングサポーター制度についての相談件数と相談内容の検討を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
	自己評価	A	
	理由	秋学期に低 GPA の学生 13 名に対して担当教員や執行部から個別面談のアプローチを行い、約半数に学修指導を実施、約半数は連絡が取れずじまいだった。 学生がキャンパス入構できない状況下で、ラーニングサポーター4 名によるメールでの履修相談の機会を設けた（8 日間約 20 時間）が、相談者は例年よりもかなり減少した。この経験を踏まえ、次年度の履修相談のあり方を検討した。このような状況下、基礎演習の授業を通じ、各教員がクラス学生の個別相談に応じていた。 本学部同窓会が再起動し、卒業生と在校生の交流の場がオンラインで実現した。	
	改善策	オンラインも含めて、個別面談の機会を増やして、細やかな指導体制を維持していくことが求められる。また、同窓会とも緊密な連携を取っていくことで、卒業後の職業観を磨く機会を提供することが望まれる。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	ほぼ達成し、質の向上が見られる。ラーニングサポーターによるメールを用いた履修相談を実施するなど、支援体制の充実に向けて、状況に応じた工夫がなされている点が評価される。	
	改善のための提言	オンラインでの個別面談を含め、履修相談の日程や方法などについて、次年度の状況を想定しつつ、柔軟に対応できる体制づくりを検討いただきたい。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
9	中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通じて今後の展開を促す。	
	年度目標	①学生や教員、また演習などにおける社会貢献や社会連帯との活動について把握する。 ②それらの結果を学部内で発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。	
	達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートの実施。 ②そのアンケートをもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③その結果を学部広報を通じて発信していく。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	社会貢献活動や社会連携活動について、ゼミへのアンケート調査を実施し、フィールドワークが制限される中取り組まれた 4 つの事業を教授会で報告、学部広報へ展開した。
		改善策	今後は、学期ごとに情報を収集し、諸活動を適宜配信することが望ましい。
質保証委員会による点検・評価			
所見	目標をほぼ達成し、質の向上が顕著である。社会貢献活動や社会連携活動の「見える化」について教授会で報告がなされ共有されるなど、具体的な成果が得られている点が評価される。		
改善のための提言	情報の「見える化」「共有化」について、さらに積極的に取り組んでいただきたい。		
【重点目標】			
理念・目的			
①現代福祉学部の目的や教育理念についての発信を強化し、広報戦略の見直しを行う。			
②学部の理念や目的に即したカリキュラム改正を実現し、周知方策を検討する。			
③教職員や学生の取り組みやメッセージをオンラインメディアで頻度よく発信できるようにする。			
【目標を達成するための施策等】			
学部の広報委員会の人数を増やし、執行部と連携しながら新たなカリキュラムスタートとともに始める広報戦略について検討する。とりわけ、オンラインメディア（HP、SNS 等）の活用を含む新しい広報活動を検討する。			
【年度目標達成状況総括】			
社会福祉士関連の法改正に基づく授業編成の改築を中心とした 2021 年度のカリキュラム改編の準備を終えることがで			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

きた。しかしながら、新型コロナ感染対策としてのオンライン授業への転換に業務が集中したことにより、今年度の重点目標であった広報戦略の見直しが不十分であったため、次年度はその実現に積極的に取り組んでいきたい。

#### 【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】

現代福祉学部の 2020 年度目標の達成状況は、ほぼ適切である。Covid-19 の影響により、広報活動に支障が出たことはやむをえないと考えられる。その中でも学部 HP を通じた情報発信を活性化させたことは評価したい。オンライン授業の評価について 6 月段階で学生にアンケート調査を実施したこと、また、実習・インターンシップについては派遣先と連絡を密にしながらすべてのプログラムを実施したことなど、状況の変化に臨機応変に対応したことは高く評価できる。

懸賞論文の投稿について目標を上回る投稿数を実現させ、優秀賞を含む入賞の成果を残したことは評価でき、今後とも学生に論文投稿やコンペ等への参加を促す取り組みを継続することが期待される。

2020 年度入学生については、履修相談会の相談者が例年よりかなり減少しているとのことであった。2020 年度入学生は 2021 年度入学生とは異なり、1 年次春学期に対面授業が困難であったことから、体系的な履修に向けて、今後とも継続した支援が必要であろう。

#### IV 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。
	年度目標	①現代福祉学部の教育理念（ウェルビーイング）を他学部と比較した上で、本学部の強みについて発信を強化する。 ②教員や学生の様々な活動やメッセージを学部ホームページ等オンラインメディアで頻度よく発信していく。 ③オンライン媒体を活用した広報に向けて、学生有志とともに戦略を練り直し実行体制を構築する。
	達成指標	①競合他大学との差異をしっかりと分析した上で、教育理念と学部の強みを強調する広報内容にする。 ②上記に加えて、2021 年度のカリキュラム改正を反映した内容でパンフレットを改訂する。 ③学部ホームページを基軸に、オンラインメディア（HP、SNS 等）を活用する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等も含め、学生有志の協力を得ながら、受験生目線の広報活動を行う。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	継続的な内部質保証を実現するための PDCA サイクルを充実させる。
	年度目標	①質保証委員会と学部執行部による着実な PDCA サイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD 改善に向けた研究会の内容について検討する。
	達成指標	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初、春学期終了時、年度末の 3 回行う。 ②ウェルビーイング研究会を年 3 回開催し、そのうち 1 回以上は FD 改善のための意見交換を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	2018 年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
	年度目標	2021 年度からスタートした新カリキュラムについて、モニタリングを行う。特に、言語コミュニケーション科目や SW 指定科目の再編に注目して調査する。2020 年度の新型コロナ感染拡大に対応したオンライン授業の内容検証に重点を置く。
	達成指標	①カリキュラム・マップやツリーを適切に改正する。 ②学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。 ③モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

4	中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。
	年度目標	①2021 年度から導入されたハイフレックス型授業も含め、オンラインによる講義形態と教室での対面授業についてそれぞれの長所と課題について検証を行う。 ②新型コロナウイルス感染拡大に対応したゼミでの活動、実習、インターンシップの展開についてその実態把握を行う。
	達成指標	①オンラインによる各種授業形態と対面授業とを比較するための教員向けアンケート調査を実施する。 ②実習、インターンシップにおける実施内容について教務委員会ならびに実習調整委員会において実態を把握する。 ③各ゼミの活動が感染症拡大とどのように対応してきたのか、2019～2021 年度の比較データを収集し、今後の教育方法について検討を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
	年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③研究活動の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。
	達成指標	①各実習の報告書と報告会開催について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に学部内で10本投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。 ⑤各ゼミの学習・活動報告会を開催する。 ⑥優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを学部内で表彰する。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。
	年度目標	留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、2019年度から始まった「まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。さらに、編入学試験による入学生を確保するための方策を検討する。
	達成指標	①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果（GPA）の動向について検討協議し、教授会に報告する。 ②2020年度に設置した「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を進める。 ③各入試方法別の入学生とともに、効果的な広報手段について検討を行い、教務委員会と広報委員会を中心にそれを実行する。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
	年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
	達成指標	①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。
	年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低 GPA 学生に対する支援の仕組みを整える。 ②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	①低 GPA の基準を引き上げて対象とする学生を拡大し、従来の秋学期に加えて春学期にも当該学生への面談を実施することにより、よりキメの細かな対策を講ずる。 ②ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
9	中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。
	年度目標	①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握する。 ②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。
	達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施する。 ②そのアンケート結果をもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③さらに、優れた活動を学部広報を通じて発信していく。
<p><b>【重点目標】</b> フィールドワーク、研究教育など多様な教育活動内容の「把握」「発表」「表彰」「広報」教員と学生の協働による学部の外部へのアピール。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部教育における特徴的な活動（フィールドワークや学習研究教育、コンペ応募など）の実態を把握する。</li> <li>・感染症対策により、どのように柔軟に対応してきたのか、2019年度～2021年度の経年的な推移をみる。</li> <li>・ゼミごとの学習・活動報告会での発表、顕著な成績を収めた活動の表彰、それらを画像や映像に収録編集して対外的に配信するための組織を学生と教員で構築して遂行する。</li> </ul>		

#### 【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

現代福祉学部においては、中期目標、年度目標ともに現状分析を踏まえており、概ね妥当である。今後とも Covid-19 に対応したオンライン授業の必要性が継続することが考えられることから、実習・インターンシップの実態把握を含めた授業の内容検証を着実に実施することが望まれる。

理念・目的欄に掲げられたオンライン媒体を活用した広報は、重点目標に掲げられたフィールドワーク、研究教育など多様な教育活動内容の「把握」「発表」「表彰」「広報」と連動させることが重要であろう。

内部質保証の取り組みに兼任教員の参加を促すことは重要であり、ウェルビーイング研究会の場を用いた FD 改善のための意見交換が有効に機能することが期待される。

#### 【大学評価総評】

現代福祉学部においては、Covid-19 への対応という通常と異なる緊急対応が求められた 2020 年度において、6 月という早い段階で学生へのオンライン授業に関する満足度調査を行い、その結果をウェルビーイング研究会において専任教員と兼任教員で共有したこと、実習・インターンシップについても派遣先と連絡を密にしながらすべてのプログラムを実施したことなど、状況の変化に臨機応変に対応したことは高く評価できる。

また、実習報告書の作成や報告会の開催、懸賞論文の積極的な投稿と受賞、学内外のコンペ等への参加など、学習成果を学内外に積極的に公表する取り組みが成果をあげてきており、より積極的な広報活動に生かせるという好循環を生み出すことが期待できる。

現代福祉学部においては新カリキュラムが 2021 年度入学生から適用となることから、このカリキュラムの円滑な実施と定着、検証に向けた取り組みを期待したい。